



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**



**またしても入賞に、あと一歩手が届かず……
追上げる速さは身についた。あとは運と予選だけ！**



FIA-F4 選手権シリーズ第9戦、第10戦

2018年9月15日～16日 スポーツランド SUGO（宮城県）

晴れ 15周（27台出走）

ドライバー：平木玲次

第9戦 予選 11番手／決勝 12位

第10戦 予選 14番手／決勝 11位



茨城トヨペットレーシングは今シーズンから GR 86/BRZ レースと併せ、インギングモータースポーツとジョイントして FIA-F4 選手権シリーズにも挑むこととなった。起用するドライバーの平木玲次選手は、チームを移籍して3年目のシーズンを戦う。

全7大会14レースの開催が予定されているシリーズ第5大会の舞台はスポーツランド SUGO。その予選と決勝レース第9戦が9月15日（土）に、決勝レース第10戦が16日（日）に行われた。

ここ2大会に共通するのは、金曜日までの練習走行は好調だったのに、いざ予選になると中団に埋もれてしまうこと。ひとえにニュータイヤを上手く使いこなせていないのが理由だったものの、金曜日、土曜日に行われた専有走行のラストに装着すると、玲次選手は一気に1秒アップ！ 全体の5番手に当たる1分24秒825を記すまでとなっていた。ユーズドタイヤでの安定感は従来どおり。今まで以上の期待を抱かせるまでとなっていた。

今年の夏は連日のように猛暑が続いたが、さすがに9月も半ばとなると、秋の気配を漂わせるようになっていた。そのため、土曜日に行われた予選は温度も路面温度もやや低めだったこともあり、あらかじめウォームアップは入念に行う予定だった。その甲斐あって、アタックをかけ始めると順調にタイムアップ。このレースウィーク自己ベストとなる1分24秒799を記した直後に、なんと赤旗が……。SP コーナーアウトの先で、コースアウトした車両を回収するためだ。

ピットに戻った玲次選手はセットを変更。これが功を奏してタイムアップは果たしたものの、すでにタイヤはピークを過ぎており、ベストタイムは1分24秒546で11番手、セカンドベストタイムは1分24秒767で14番手という結果に留まり、それぞれが第9戦、第10戦のスターティンググリッドとなってしまう。

「3周ぐらい、じっくりタイヤを温めていこうとは思っていたんですが、アタック中に赤旗が出てしまって。最初からもうちょっと早い段階でアタックしても良かったかもしれません。昨日まで調子良かったのに……。ただ、予選終わったら得意の雨が降って来たので、決勝では追い上げます！」と玲次選手。

第9戦決勝は、玲次選手が願うとおり、ウェットコンディションとなっていた。ただし雨はもうやんでおり、ドライタイヤで行けるかどうか微妙な状態ではあった。結論から言うと、グリッドでドライタイヤを選んでしたのは1台のみ。玲次選手はもちろん、ウェットタイヤを迷わず選んでいた。だが、予想外だったのは普段よりスタート進行が長めに取られていたため、その間に路面は急速に乾いていたことだ。

濡れた路面にしっかりトラクションをかけ、好スタートを切った玲次選手だったが、まさかその先に落とし穴が待っていようとは。4コーナーでペースの鈍い車両をかわすのに手間取り、痛恨のスピンを喫してしまったのだ！

これで 24 番手と、ほぼ最後尾に後退した玲次選手だったが、そこからは宣言どおり「追い上げ」が続く。19 番手に浮上していた 5 周目には、トップと変わらぬペースどころか、その時点でのファステストラップさえ記録する。

そして、12 周目には 12 番手にまで返り咲いたものの、残念ながらそこから先が遠かった。玲次選手の記したベストラップは、ウェットタイヤを装着していた車両の中では 2 番目で、トップグループをはるかに上回っていただけに、あのスピンの惜しまれる。もし、「たれば」が許されるなら.....。

ちなみにトップでチェッカーを受けたのは、唯一ドライタイヤを装着していた車両だったが、追い上げの最中に黄旗区間での追い越しがあり、ペナルティを課せられて降格となっていた。

開けて日曜日の第 10 戦決勝レースは、一転して秋晴れの中で行われた。早朝ではあるのに、もうスタンドには大観衆が。そのことが玲次選手のテンションを高めもした。スタートはまずまず。ポジションキープの 14 番手で 1 コーナーをクリアし、3 コーナーでさっそくオーバーテイクを試みるも、インからでは前に出切れず、逆にアウトから 1 台にかわされてしまう。

だが、5 周目には先行車両のスピンによって 14 番手に順位を戻し、8 周目にもう 1 台が。そして 9 周目には自力で 1 台を、そして 13 周目にも 1 台を、いずれも馬の背コーナーでかわして 11 番手に浮上する。あと 1 台で入賞.....、だが残り周回で間隔を詰めこそしたものの、逆転するまでには至らず、無情にもチェッカーが。またも追い上げは果たしたが、11 位に終わった。

前大会に増して、追い上げるスピードを持つことを証明した玲次選手だったが、またしても予選には課題を残してしまう。あと、ほんの少しの運を欠いているが、これさえ何とかできれば。第 6 大会は九州のオートポリスが舞台。10 月 20～21 日に開催される。すでにテストを行っており、ライバルの多くも経験の少ないサーキットで本領発揮が望まれる。

平木玲次選手のコメント



ここ 2、3 戦、予選で失敗して、決勝が苦しくなっています。練習まではいいんですが。昨日のスタートはそれなりだったんですが、4 コーナーで自分のミスが.....。あれがなければ、というのはあったんですが。そこで何か自分が焦っちゃったのか、スピンしちゃったのは事実なので、もうちょっと気持ちの持っていく方とか変えていかなきゃいけないですね。でも、そこからはペースも良かったので、1 台ずつ抜いていけたのは良かったと思います。今日はスタートでひとつ順位を落として、前のペースの悪い人たちに何周か付き合わされちゃって、このコースは抜きどころが少ないから、一発で仕留められないと何周も無駄にしちゃいます。前がクリアになってからはタイムも出るようになってきたんですが、順位が順位なので、なかなか追い上げきれずに終わってしまいました。また苦しい週末になってしまいました。予選ですね、毎回言っていますが。テストで何か見つけて、次につなげられるよう頑張ります。

